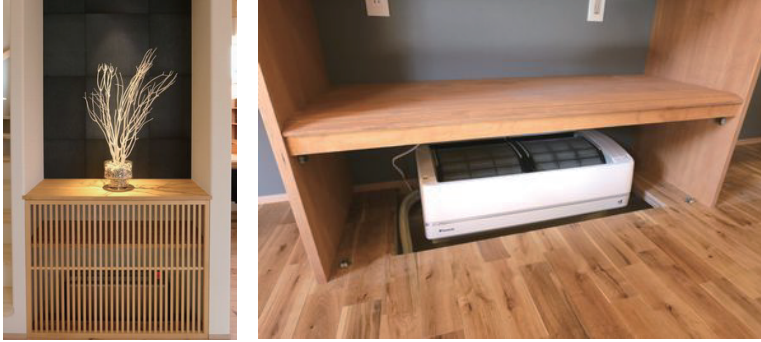


床下エアコンによる全館暖房

～足元からの快適さを～

「床下エアコン」とは

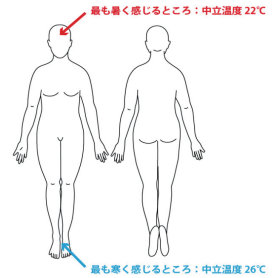
家庭用エアコンを床下に設置、床下に温風を吹き出しで基礎や床面を温め、さらに床面のガラリから各室に暖気を送り、緩やかな対流で家全体を温める画期的な省エネ暖房です。床面22℃をつくり出します。



「足元から暖かい」を実現できる安価な暖房方式

人間にとって快適な温度は、頭部が22℃程度で足元は26℃程度。つまり、**足元が暖かい方が快適**と感ずるので。

しかし、通常のエアコン暖房では「上が暑く、床が冷たい」だからと言って床暖房ではイニシャルコストが高価になってしまう。

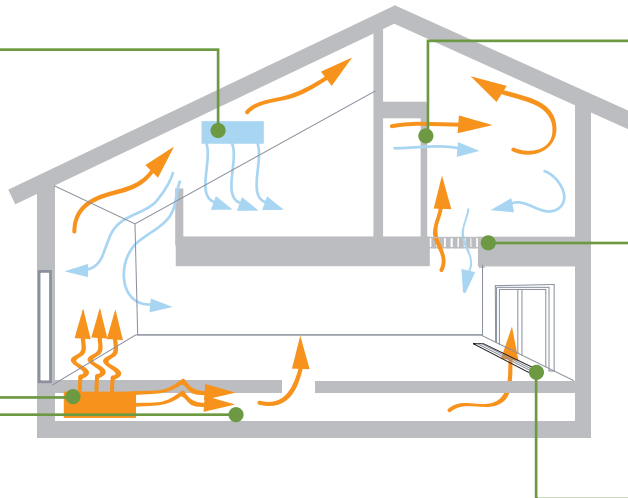


夏場のための、冷房用エアコンも必要。壁や天井の表面温度が低い住宅施工の場合、輻射熱の不快感がなく設定温度を高くできる。さらに省エネかつ快適な環境となる。

エアコンはもっとも費用対効果に優れた家庭用12畳用エアコンを用いる。



排水はヘッダー工法ではなく在来工法。給水は天井裏にすることで床下の配管を減らしている。



間仕切りなどで仕切られているスペースにはパイプファンで暖気・冷気を送る。



吹抜や2階の床面にすのこを配置すると1階からの暖気を有効的に取込むことができる。



床面にガラリを切って自然対流による暖気を室内に導く。窓下に設けることでコールドドラフトを防ぐ。



ランニングコスト

メリットデメリット

- **メリット**
 - ・ 通常のエアコンの暖房のような「上が暑く床が冷たい」を解消できる。
 - ・ 足元の方が暖かいので設定温度が低めでも暖かさを感じやすい。
 - ・ イニシャルコストが安価。
 - ・ エアコン暖房なので効率が良くランニングコストも安い。
 - ・ 窓からの冷気をシャットアウトできる点はシルクラインよりもメリットがある。
- **デメリット**
 - ・ 床にタイルは使用できない。(使えるが冷たく感じてしまう)
 - ・ 蓄熱床暖房のようなムラのない床温度とまではできない。
 - ・ エアコンの音。
 - ・ エアコンの耐用年数が浅い。

取扱い

- **冬場**
 - 11月初旬頃(気温による)から床下A/Cの運転開始。(設定温度28度程度)
 - 床下空間が全体的に暖まるまでは室内温度を下げない。(大体4～6日間程、その後は室内温度をみながら調整)
 - 電気料金が安くなる23時～7時の深夜電力帯間だけ設定温度を高くした方が床下、室内温度共にキープしやすい。
- **夏場**
 - 床下には基本定期的に冷気を入れないようにする。(結露の原因に)
 - 夏季の冷房は床下エアコンを使わず、2階の高い位置のエアコンを使用。
- **メンテナンス**
 - 基本的に普通のエアコンと同じくフィルターの掃除。床下はゴミが気になれば掃除を